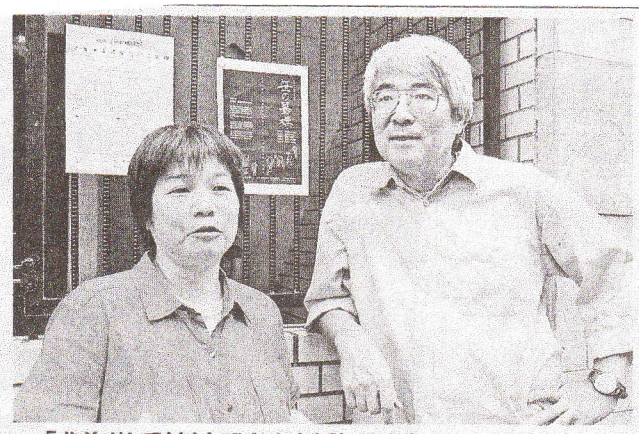
北海道新聞 2013.7.19(金)

戦時・朝鮮人労働者の遺骨収集

記録映画28日から上映

札幌・江別

戦時中に北海道で亡くなった、朝鮮人労働者の遺骨を掘り起こす作業を通じ、交流を深めている日韓、在日韓国・朝鮮人の若者たちがいる。その15年の歩みを収めた約9時間の長編ドキュメンタリー映画「笹の墓標」が、28日から札幌などで上映される。道内在住の2人の共同監督は日韓関係が冷え込んでいる今こそ「見てもらう意味がある」と話している。



「北海道で続けてきた活動ですから、道内での上映を成功させたい」と語る影山あさ子（左）、藤本幸久両監督

全5章、9時間の長編

監督は、ともに沖縄の米軍基地問題などをテーマにしてきた影山あさ子さん(49)＝札幌市＝と藤本幸久さん(59)＝十勝管内新得町＝。

戦時中、道内には14万～15万の朝鮮人が連れてこられ、ダムや飛行場の建設現場、炭鉱などで働かされた。病気やけがで亡くなり、建設現場近くに埋められた人も少なくない。カメラが追うのは、その遺骨を掘り起こそうと、1997年に始まった「東アジア共同ワークショップ」だ。

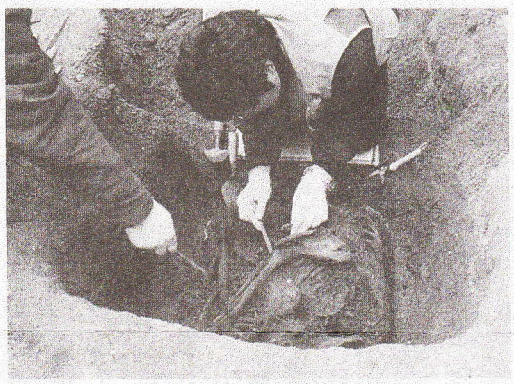
上川管内幌加内町や宗谷管内猿払村の現場に、日韓、在日の若者らが多い時には300人集まった。手作業で遺骨を掘り出し、供養する。韓国にも渡って遺族を探し、身元の分かった遺骨を返してきた。

若者たちが会うのは毎年、夏と冬の2回。作業の合間には飲み、語り合う。被害と加害の歴史を背負い、時には激しくぶつかり合う。一方で相手の苦しみ、痛みを知り、わがことのように涙する。国境を越えて結婚するカップルも出てきた。

この間、日韓、北朝鮮の関係は拉致問題や領土問題で激しく揺れに私たちはまた会えるのか、と危機感を覚えた。でも、今は問題が起こっている中でこそ会う必要があると思っています」

15年間に撮りためたテープは約700時間。1年かけて編集したが、それでも全5章、計9時間余りの長さになった。

自らスタッフとして初回からワークショップにかかわってきた影山さんは「常に逆風が吹く中で、小さいながらこういう試みが続いてきたことを知ってほしい。知ることで元気になってもらえるのではないか」と語る。



映画の一場面（東アジア共同ワークショップ提供）

◇

上映会は28日と8月4日が札幌市教育文化会館（中央区北1西13）、同1日が札幌エルプラザ（北区北8西3）、同10日がドラマシアターどもⅣ（江別市2の2）。いずれも午前10時半から全5章を順次上映する。入場料2千円。複数日に分けて鑑賞できる。詳細はhttp://sasanobohyo.blogspot.jp/。問い合わせは影山さん☎090・2052・9902へ。

日本の戦争と朝鮮は分かりにくく結びついています。21世紀、和解と戦争、どの道へ向かうのか。「笹の墓標」ぜひとも、ごらん下さい。
荻森先生の教え子たちにもご紹介下さい。
藤本幸久

日本・韓国・在日コリアンの若者たちの 15 年の歩みを描く

笹の墓標

監督　影山あさ子・藤本幸久／9時間9分／HDV／企画・製作・著作　森の映画社 2013年

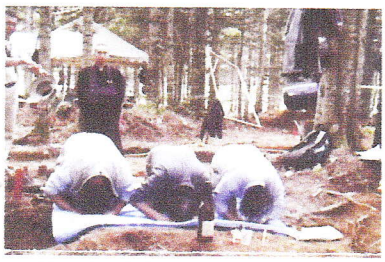
第一章　朱鞠内（114 分）
1997 年、北海道幌加内町朱鞠内。戦時下に行われたダム工事と鉄道工事の犠牲者の遺骨を発掘しようと日本と韓国、在日コリアンの若者たちが集まり、4 体の遺骨が発掘された。初めての出会いと共同作業。すぐに仲良くなれるかに思われた若者たちだったが、日本人と韓国人の間に衝突が起こる。

第二章　浅茅野（98 分）
北海道猿払村浅茅野。2006 年から 2010 年まで、3 度にわたる旧日本陸軍飛行場建設工事犠牲者の遺骨発掘が行われた。考古学の専門家たちの参加を得て、丁寧に進められる発掘。39 名の遺骨が発掘された。小さな穴に折りたたむように押し込められた遺骨の姿から、強制労働の実態が浮かび上がる。

第三章　遺族（109 分）
遺骨を遺族に返したい。手がかりを求め、遺族や強制労働の体験者たちを訪ねる若者たちの旅が続く。戦後 60 年以上が過ぎても、消えない犠牲者遺族の悲しみ。帰る場所を見つけられない数々の遺骨。長い道のりを経て、4 体の遺骨が韓国人遺族へ返還されることになった。被害者と加害者の和解は、はたして可能なのか。

第四章　未来へ（121 分）
97 年以来、毎年、夏と冬のワークショップが続いてきた。若者たちは、国境を超えて生きる場所を見出してゆく。2003 年に始まるイラク戦争、拉致問題から再び強まる日本の排外主義。ともに平和な未来を生きてゆきたいという若者たちの願いは…。

第五章　私たち（107 分）
2012 年夏。炭鉱で働かされ、人知れず闇埋葬された犠牲者の遺骨を発掘するため、北海道芦別市に集まった若者たち。かつての若者たちも父となり、母となった。今日も笹の墓標の下に眠り続ける遺骨の数々。そして、家族のもとに帰ることができない遺骨。若者たちの旅は、まだ、終わらない。



スタッフ
企画・製作・著作　森の映画社
プロデューサー　藤本幸久
監督　影山あさ子・藤本幸久
撮影　小寺卓矢／藤本幸久／影山あさ子／栗原良介
撮影協力　宮崎利春／山崎耕太
映像提供　日韓共同ワークショップ委員会／東アジア共同ワークショップ委員会／チョン・ビョンホ（ハニャン大学）／北海道放送／谷上隆/李紅培/南北子どもオッケドンム
資料提供　神戸学生青年センター出版部／竹内康人
編集　栗原良介
音楽　川端潤（Airplane Label）
録音スタジオ　Studio Airplane
歌　趙博「ヨイトマケの唄」
題字　殿平善彦
タイトルデザイン　ねこまたや
日本語字幕　カン・ホボン／洪里奈／影山あさ子／ソン・ギチャン／李和美

助成：文化芸術振興費補助金

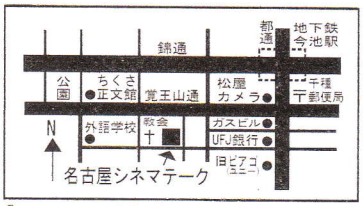
11月2日(土)～11月8日(金) 一挙公開!!

各章入替制 全5プログラム

第一章	10:30～12:24 (114 分)
第二章	13:00～14:38 (98 分)
第三章	15:00～16:49 (109 分)
第四章	17:10～19:11 (121 分)
第五章	19:30～21:17 (107 分)

11/2(土)・3(日)・4(月) 第一章終了後
藤本幸久監督 舞台挨拶あり！

前売 5 プログラム通し券 3000 円 均一
■当日券（5プログラム通し券）　4000 円均一
（1プログラム券）　一般 1500 円　大学生 1400 円
中学・高校生 1200 円　シニア 1000 円
※通し券は別の日に分けてご覧になることも出来ます。



http://cineaste.jp
名古屋シネマテーク
地下鉄今池駅・UFJ銀行西180m　tel.052-733-3959